

みずならの根

当場の苗畑にも小さい切通しがあって、その30°ほどの切土面に、ミズナラの稚苗が数本はえている。それらの種子の母樹がどこにあり、何によってそこに運ばれたか不明である。崩土もたまった表層に移植ゴテをさしこんで、根ごと掘り取ったら、切れかかったヘソの緒にドングリがついていた。そして、幹の細さに比較して、根は著しく太く長かった。イモ根には細根が無数について、これなら地上部の伸びは約束されていると思われた。苗畑で人手をかけて実生苗をつくると、根は鉛直に太く長く伸びるのだが、ヒゲ根の出はかんばしくない。ジフィポットにも移しにくい。山出しを考えると、床替のとき根切りしてヒゲ根を促すか、斜植えにするか、床替せずにおいた方がよいのか。

ともかく、ヒゲ根タイプの造林用の針葉広葉樹苗木とは違って、イモ根タイプの防災林用の広葉樹苗木はつくり方にまだ不明の点が多い。

(防災林科 齋藤新一郎)

